

ISO14001 と労働衛生：クールビズ「28℃では能率低下」

環境・健康

Kes Information No.175「ISO14001 と労働衛生：省エネと労働衛生」に関連する新聞記事、クールビズ「28℃では能率低下」を下記に紹介します。「ISO14001 と労働衛生：省エネと労働衛生」で示した対策に加え、扇風機などの利用により体感温度を下げるのが望まれます。

クールビズ「28℃では能率低下」 建築学会調査

地球温暖化対策として、夏場を軽装で過ごす「クールビズ」。冷房温度を28度と高めに設定し、省エネを図る取り組みで、年々広がっているが、日本建築学会のチームによる最近の研究で、軽装だけでは暑さで仕事の能率が落ち、経済損失にもつながる場合もあることがわかってきた。専門家は「換気や送風を組み合わせ、作業能率を下げない省エネ方法が必要だ」と提言している。

クールビズは、6～9月に「ノーネクタイ、ノー上着」で職場の消費電力を減らす運動。環境省が2005年に提唱した。28度は建築物衛生法の定める執務室の上限温度だが、作業の能率への影響は不明で、日本建築学会は06年から科学的検証を進めてきた。

神奈川県の話交換手100人を対象に1年間かけた調査では、室温が25度から1度上がるごとに作業効率が2%ずつ低下した。

東京都内の官庁のオフィスではクールビズを導入後、消費電力が以前より11.9%減ったが、調査すると、室温にムラがあり、30度に達する席もあって働く人の不満は高かった。3～6席に1台の大型扇風機を運転すれば、体感温度が下がって能率は維持され、電力消費は以前の10.2%減と、さほど変わらなかった。

チームの田辺新一・早稲田大教授（建築環境学）が、平均賃金などから試算すると、冷房の設定が25度の場合と比べ、軽装のみでは、能率低下で期間中、オフィス1平方メートルあたり約1万3000円の損失が出る。

(2008年7月18日 読売新聞)

kes サポート

課 題	kes サポート
作業環境の調査	作業環境測定
ISO14001 関連調査	環境計量証明事業（環境側面）
ISO14001 と労働衛生取り組み支援	労働衛生等コンサルティング